平 成 20 年 度

（ 第 18 期 ）

事 業 計 画 書

自　平成20年4月1日

至　平成21年3月31日

財団法人しまね自然と環境財団

財団法人しまね自然と環境財団

平成20年度事業計画案

目　次

Ⅰ　平成20年度基本方針 ……p. 5

Ⅱ　島根県立三瓶自然館及び付属施設の管理運営事業

1. 事業概要 ……p. 8
2. 施設の運営計画 ……p. 9
　2－1　三瓶自然館 ……p. 9
　2－2　三瓶小豆原埋没林公園 ……p.15
　2－3　ふれあいの里奥出雲公園 ……p.16
　2－4　三瓶山北の原野営場 ……p.18
3. 接遇･サービス ……p.19
4. 広告宣伝 ……p.19
5. 施設の管理 ……p.20
6. 野外（フィールド）の管理 ……p.21

Ⅲ　環境保全･温暖化対策事業

1. 事業概要 ……p.22
2. 交流連携事業 ……p.22
3. 情報収集･提供事業 ……p.22
4. 活動支援･助成事業 ……p.22
5. 人材育成事業 ……p.22
6. 普及啓発事業 ……p.22
7. 環境学習事業 ……p.23
8. CO2削減対策事業 ……p.23
9. 地球温暖化対策事業（地球温暖化防止活動推進センター業務） ……p.23
10. 島根県地球温暖化対策協議会運営業務 ……p.24

Ⅳ　調査研究事業

1. 事業概要 ……p.25
2. 指定管理業務での調査研究（再掲） ……p.25
3. その他の調査研究 ……p.26

Ⅴ　環境教育･環境学習事業

1. 事業概要 ……p.29
2. 子どもパークレンジャー事業 ……p.29
3. ふれあいの里奥出雲公園における環境教育･学習事業(再掲) ……p.30
4. 講師派遣による学校教育等への協力 ……p.30
5. 子ども向けプログラム等の提供 ……p.30

Ⅵ　付随事業

1. 物販事業 ……p.31
2. 貸出事業 ……p.31

Ⅶ　地域との連携、その他の事業

1. 地域との連携 ……p.32
2. その他の事業 ……p.32

別　　紙 ……p.33

Ⅰ　平成20年度基本方針

1．全体基本方針

＜キーワード：夏の企画展、環境保全・地球温暖化対策、指定管理4年目＞

今夏予定されている洞爺湖サミットでは、地球環境保全、里地里山保全などが話題にあがる予定であり、国を挙げての環境保全意識の高まりはますます進むであろう。島根県の自然環境・地球環境保全を率先して進める立場として、こうした流れを的確に踏まえながら、特色のある魅力あふれた事業を展開していくことが求められる。より多くの県民の生活に資するとともに、環境保全に取り組む施設・財団としての存在意義も、より積極的にアピールしていく。

三瓶自然館及びその附属施設においては、引き続き、利用者のニーズに応じた事業やサービスの提供、自然とふれあい憩える場や機会の提供、生涯学習・環境学習を進めていき、県民の方々になお一層親しまれる施設となるよう努める。とくに夏の企画展では、幅広い年齢層に人気の高い「化石」をテーマとして、太古の生物へのロマンを感じてもらう機会を提供するとともに、集客力の強化をはかる。

また、世界遺産登録された石見銀山など、地域との連携についても重要な課題と位置づけて事業展開を図ることとする。

さらに、新たに取り組む環境保全・地球温暖化対策に関する事業については、当財団のノウハウ、三瓶自然館等の施設との連携により、効率的で効果的な事業展開に努める。

そして4年目となる指定管理業務では、過去3年間の取り組みを振り返りながら各事業を進るとともに、次期指定管理プレゼンテーションに向けた万全の取り組みを準備していくこととする。

2．各施設毎の運営方針

(1)三瓶自然館

＜夏の企画展による集客の強化＞

事業の中核、骨格となる施設が三瓶自然館サヒメルである。より多くの県民へのさらなる貢献のためにも、幼児から高齢者までの幅広い年齢層、あるいは個人、ファミリー、団体客など様々なグループを想定し、より多様な来館者ニーズに応える事業を展開することとする。

様々な事業の中でも、新鮮さ目新しさをアピールできる機会が企画展である。夏季には、幅広い年齢層に人気が高い「化石」をテーマとした企画展を行うことで、集客をはかりながらも、普段は目にすることが少ない大型の化石をみることができる機会を提供する。その他、春季と秋季をあわせて年3回実施することで、常に目新しさを感じてもらえるよう努める。

大幅な更新が難しい常設展示においても、展示解説、回廊展示の利用、部分的な展示物の入れ替えなどで補完するほか、観察会、講演会、イベントなどの事業の展開により、行ってみたい、見てみたいと思わせるような、魅力的で楽しい博物館を目指す。昨年度人気の高かった工作教室なども引き続き実施し、来館者とスタッフ・ボランティアとの交流の機会を多く持つよう努力する。

また、情報発信がますます重要となってくることから、ホームページの充実強化を目指しアクセス件数の増加を図ることとする。さらに、博物館の基幹事業である、島根の自然・環境に関する調査研究や博物館資料の収集保存も計画的に進め、資料のデータベース化とこれらの成果を県民に積極的に公表し、展示をはじめ普及啓発に資することとする。

(2)三瓶小豆原埋没林

＜石見銀山遺跡との連携と展示解説等の充実＞

三瓶小豆原埋没林は、三瓶山の火山活動によって形成された学術的に貴重な自然史資料である。また、巨木が林立する迫力と神秘性は圧倒的な存在感をもち、大田圏域を代表する観光資源となっている。世界遺産「石見銀山遺跡」との連携により、大田圏域への来訪者を圏域でもてなし、当公園への来園をうながす工夫をこらす。

当公園は、開園からの5年間で開園前の予想を大きく上回る入園者を得ている。リピーターの期待が難しい施設にもかかわらず、スタッフの接遇・サービスの努力により一定の再来園者がある。展示解説等に加え三瓶地域の情報提供を地域との連携によって進め、さらなる再来園者の増加を目指す。

なお、埋没樹の保存方法等、今後の運営方針については、保存検討委員会を県との共同で開催しながら協議を進め、中長期的な施設目標・計画を構築することとする。

(3)ふれあいの里奥出雲公園

＜環境学習プログラムの充実とあらたなる客層のとりこみ＞

ふれあいの里奥出雲公園は、自然と上手につきあい、上手に自然の恩恵を利用する「自然のワイズーユース」をテーマとして、体験型の環境学習フィールドとして、整備を行ってきた。

平成19年度から、新たな取り組みとして、園内の竹林を環境学習のフィールドとして保全しながら有効利用する事業をスタートさせた。平成20年度は、地域の学校や公民館との連携をさらに強化し、これらの事業を展開していく。また、一般来園者向けとしてスタートしたネイチャークラフトなどのセルフプログラムも好評であり、内容の充実をはかりながら、学校向けのプログラムを新たに加えて実施する。

一般来園者については、自然の中でゆったりとくつろぐことができる癒しの空間として、園地や宿泊施設の雰囲気を醸成していく。また、近年のニーズにあわせて、「ドッグランがある、犬を同伴できる宿」として、ケビンの利用の更なる増加を目指す。

当公園は、190haにも及ぶ広大な敷地面積がフィールドとしての魅力である反面、全体の維持管理に相当な時間と労力を要するが、利用目的や安全管理に基づくゾーニングを行い、効率的な管理を行うことで、環境学習のフィールドはもとより、来園者に魅力ある空間を維持できるようよう努めている。

(4)三瓶山北の原野営場

＜利用者ニーズに合わせた企画による新たな客層のとりこみ＞

三瓶山の懐に抱かれた施設として溢れるばかりの森の息吹き、フィトンチッドを浴びることのできる施設として、県内では希な、登山も出来しかも海遊びさえも可能な、恵まれた地形背景を持ったキャンプ場施設である。

本年度は、改めてこうした魅力を大きくPRすることとする。とくに、大田圏域を対象としたデーキャンプなどの新規企画により、地域に根ざしたキャンプ場として展開をはかるとともに、新たな客層の取り込みによる集客の強化もはかる。

また、観光拠点としての機能も十分認識し、徹底したホスピタリティによって、来場者全ての方々に満足していただけるようなサービスを展開し、利用の増進、自然環境への関心の普及を進めていく。

なお、ケビン・ロッジの新たな利用方法を積極的に検討し、利用者の拡大に努めていく。さらに、キャンプ場を利用した独自のイベント等も計画する。

(5)松江事務所

＜三瓶自然館等との連携による効率的な事業展開＞

今夏の洞爺湖サミットの主要議題が二酸化炭素の排出規制であることからも、地球温暖化防止対策は環境保全の中心的課題であるといえる。松江事務所では、県民の環境問題への関心や意識の向上を図るとともに、環境家計簿やマイバック運動など、具体的な活動の普及も進めていく。またこのような環境保全活動を進める市民グループなどへのサポートや助成を積極的に行い、市民レベルでのボトムアップを進めていく。

これらの推進にあたっては、当財団のノウハウ、スタッフの専門知識、さらには三瓶自然館という博物館施設と連携できることをメリットととらえ、効率的かつ効果的に事業を進めていくこととする。

Ⅱ　島根県立三瓶自然館及び附属施設の管理運営事業(指定管理者業務)

1．事業概要

当財団は、島根県立三瓶自然館及び附属施設の指定管理者として、平成17年度から平成21年度まで、以下の業務について受託している。この業務(事業)では、業務仕様書に基づいて真摯に取り組むとともに、島根県立三瓶自然館及び附属施設の指定管理者として、公益性を重視しながら、各施設の機能発揮、いっそうの利用促進を図るものとする。

《指定管理業務内容》

(1)施設の運営に関すること

【三瓶自然館】

常設展示の運営、特別企画展等の企画･立案･運営、プラネタリウムの投影、全天周映画の上映(及びフィルムの複製年2本以上製作)、各種イベントの企画･立案･実施(年4回以上)、自然学講座の開催(年1回以上)、来館者の受付･案内･誘導及び展示解説、天体観察会の実施(年30回以上)、自然観察会の実施(年30回以上)、博物館資料の収集･保管･活用、調査研究、広告宣伝

【三瓶小豆原埋没林公園】

来園者の受付･案内･誘導及び展示解説、広告宣伝

【ふれあいの里奥出雲公園】

環境学習のためのプログラム開発と指導に関する業務、来園者の対応、宿泊施設の運用、広告宣伝

【三瓶山北の原野営場】

自然とのふれあい促進、来場者の対応、宿泊施設･キャンプ場の運用、広告宣伝

(2)施設の利用許可に関すること

利用の許可、施設の貸出、利用申請の審査基準の制定

(3)施設の維持管理に関すること

利用者管理、清掃、警備、県有車両管理、フィールド管理、軽微修繕、資格者の配置、法定点検･特殊設備の保守点検の実施、リネン類の衛生管理

2．施設の運営計画

2－1　三　瓶　自　然　館

(1)開館計画

①開館日（平成20年度開館予定日数304日）　　<別紙1>

条例で定められた三瓶自然館の休館日は次のとおりである。

・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日（祝日の場合は翌平日）

・3、6、9、12月の第1月曜日から5日間

・12月29日から1月3日まで

○上記の内、次の日を来館者サービスのために開館する。

・平成20年4月30日（水）

・平成20年6月2日（月）、4日（水）～6日（金）

・平成21年1月2日（金）、3日（土）

○夏の企画展の開催期間を9月28日までとすることに伴い、次のとおり休館日を変更する。

平成20年9月1日（月）、3日（水）～5日（金）を開館とし、

平成20年9月29日（月）～10月3日（金）を休館とする。

②開館時間

次の日は条例で定められた三瓶自然館の開館時間を1時間延長し、閉館時刻を午後6時とする。

・4月から10月までの毎週土曜日

・5月4日（日）、5日（月）

・8月13日（水）、14日（木）、15日（金）

＊合計35日

(2)常設展示

①既存展示への工夫

・展示物の入れ替え、更新により常設展示にも新鮮さを加える。

・展示解説を行い、来館者へのサービスに努める。

②展示物の劣化防止

・常設展示に陳列されている各種標本の日常的な点検の実施。

③新たな展示テーマの設置

・回廊などを利用して、斬新な展示を企画する。

・館外の三瓶や自然に関するコレクションを所有している人の展示の場を設ける。

・季節に応じたトピックの紹介

④補助教材による効果的な学習の推進

・既に各学校に配布してあるワークシート(サヒメル発見シート)により、館内での利用後に学芸員の解説を加えるなど、効果的な利用方法を推進する。

(3)特別企画展

①春の企画展「森にひそむ忍者たち」

・期間：3月20日(木)～5月12日(月)

・自然界のカムフラージュや擬態をテーマに取りあげ、生きものたちの「だます」「化かす」「驚かせる」といった不思議を紹介する。

②夏の企画展「びっくりどっきり大化石展」　　＜別紙2＞

・期間：7月4日(金)～9月28日(日)

・ティラノサウルス、マンモスの全身骨格のほか、アンモナイトや三葉虫など、様々な化石を展示するとともに、クリーニング体験など、化石に親しめる内容とする。

③秋の企画展「リアル鳥類図鑑（仮）」

・期間：11月1日（土）～1月31日（土）

・身近な鳥から、めったにみることのできない珍しい鳥まで、多数の鳥類のはく製をみることができる機会とする。さながら、室内でのバードウオッチングといった内容とする。

④次年度企画展の準備

・次年度の春の企画展として「太陽」をテーマとして取り上げる予定である。展示物の製作、借用品の手配、チラシ・ポスターの印刷など、準備を進める。

(4)プラネタリウム

①解説投影

・星空案内（毎週土曜日午後）

天文スタッフが解説を行い、その時々に応じた天文の話題を提供する。

・星座案内

職員が操作・解説を行う。その季節に見える星座などを紹介する。

②オート番組投影

・天文テーマ番組…宇宙に関わるテーマを取りあげた番組を投影する。

③学習向け番組の投影

・「中学生向け」、「小学生向け」、「幼児向け」の3番組を、学校団体等の予約に応じて投影する。原則的に天文スタッフによる解説を併せて行い、学習効果をより高めることをめざす。

④天体観察会との連動

・天体観察会が雨天曇天等で実施できないとき代替として生解説の投影を行う。

⑤番組制作

・天体現象や時節の話題等にあわせた番組を制作する。

⑥イベント

・プラネタリウムの特性を活かしたイベントを実施する。

(5)全天周映画

①定期上映

・上半期（4－9月）「三瓶冬紀行」「島根人と自然の原風景」

・下半期（10－3月）「さんべ自然紀行」「煌めきの中で」

②特別上映

・夏の企画展にあわせて、展示内容と連動した作品を特別上映（予定）。

(6)各種イベント・講演会など　　＜別紙3＞

来館者の多様なニーズに対応するために、目的と対象を区分し、明確な趣旨のもとにイベント・講演会などを実施する。

①目的、対象の区分

・実施目的の明確化

マスコミ取材などによる「PR広報」、入館者の増加による「収入」、博物館としての普及啓発活動を遂行する「館の存在アピール」など、イベント実施の目的を明確にして効果的に開催する。

・参加対象の想定の明確化

家族で楽しめる「ファミリー向け」、一般成人が楽しみながら学べる「一般向け」、より高度な知識を得られる「専門向け」など、参加者の想定を意識し、よりニーズにあった内容を提供する。

②内容

・定期イベント

週末を中心に、野外散策や工作などを定期的に行い、いつ来ても楽しい館を目指す。

北の原お散歩ツアー、工作教室、天文ミニガイド　など

・お祭り系イベント

さまざまな催しで楽しい雰囲気をつくりだし、来館者の増加や閑散期の集客を目指す。

カキツバタまつり、さんべ祭＆キャンプ場フェスティバル、サヒメル雪祭り　など

・自然体験系イベント

国立公園の恵まれた自然の中での体験を通じて、自然への興味と理解のきっかけを作る。

早春の男三瓶山を歩く、三瓶ミニツアー、夏の夜の昆虫観察　など

・講演会・講座イベント

専門分野への興味をもつ方、さらには三瓶山に関連する自然系・人文系分野など、知的好奇心を満たす内容とする。また、各分野の専門家を招いた講演会も実施していく。

自然・環境学講座　など

・天文・プラネタリウム系イベント　　＜別紙4＞

天体観察施設やプラネタリウムを活用し、天体関係の普及啓発を目指す。

特別天体観察会、プラネタリウムコンサート　など

(7)天体観察会

①定期天体観察会

・望遠鏡による天体の観察や、肉眼による星座の観察等を行う。

・天候により観察ができない場合には、希望者に対してプラネタリウムの投影を行う。

②予約天体観察会

・団体を対象として、事前の予約により随時開催する天体観察会。

・天候により観察ができない場合には、希望によりプラネタリウムの投影を行う。

③特別天体観察会

・特定の天文現象(流星群、彗星、日・月食等)や行事・連休等に合わせ、随時開催する天体観察会。

④天文ミニガイド

・日中に天文コーナーにおいて、天文展示や望遠鏡の解説を行い、晴天時には太陽や昼間に見える天体の観察を行う。

・昼間の太陽・天体観察については、団体の予約があれば、随時開催する。

⑤天文教室

・テーマ性のある天体観測入門的な内容の観察会を行う。

(8)自然観察会

①予約自然観察会への対応

・学校団体や各種団体からの依頼にもとづき、テーマや場所など依頼元の要望をふまえ、可能な範囲で対応する。

・自然観察会には、専門知識をもった学芸員が対応することで、より充実した内容を提供する。また、三瓶の自然に詳しいボランティアスタッフの協力をあおぎ、観察会対応の幅を広げていく。

②定期の自然観察会の開催

・一般の来館者が自然に触れることのできる機会を提供することをねらいとして、4～11月の毎週土曜日に観察会（北の原お散歩ツアー）を催す。

③自然観察会のテーマ

・当財団の学芸員やボランティアスタッフが有する知識やガイドの技術により、多彩なテーマで開催することが可能である。

・最新のトピックや関心事項など、常に来館者のニーズや最新情報をふまえたテーマを提供する。

(9)博物館資料の収集、保管、活用

①岩石標本の収集、分類及び整理

・三瓶小豆原埋没林およびそれに関連する資料の収集(平成17～21年度)

・松井氏寄贈の三瓶火山標本のデータベース化(平成20～21年度)

・鉱物、岩石、化石を中心とした県内産地学標本の収集(平成17～21年度随時)

・県内各地の代表的な地形・地質情報の収集(平成17～21年度)

・石見銀山に関連する地質情報

②天文分野の資料収集、整理

・天体画像、映像の撮影と整理(平成17～21年度)

③斃死鳥獣の収集と剥製作成

・財団職員による収集や外部からの受け入れによる、斃死鳥獣の収集と保管(平成17～21年度)

・それを用いた剥製の製作（収蔵数が少ない種類を重点的に実施）(平成17～21年度)

④昆虫標本の収集、分類及び整理

・県内産昆虫標本の収集と整理(平成17～21年度)

⑤植物標本の収集、分類及び整理

・枚村喜則氏収集の植物標本の整理(台紙貼付等の継続)(平成17～21年度)

・学芸員の採集による県内産植物標本の蓄積(平成17～21年度)

・アクリル封入標本の製作(平成17～21年度)

⑥自然科学関連図書の収集と公開

・地学分野、天文分野、生物分野を中心とした学術図書や論文の収集と整理

・上記分野の図鑑類の収集と公開

・広く自然科学に関する入門書や雑誌の収集と公開

⑦博物館資料の保存と管理

・第一、第二乾燥収蔵庫を対象とした燻蒸

・収蔵庫内の温度、湿度の日常的なチェック

・収蔵庫内での虫害、カビ害の日常的なチェック

・館内に設置されている燻蒸設備による標本の燻蒸

⑧博物館資料の利活用

博物館資料は、適切な保管が損なわれない範囲で、以下のような利用に供し、利活用を図る。

・将来の展示更新への活用

・博物館活動への県民の理解をねらう収蔵資料の期間展示

・ホームページなどでの情報公開

・館外研究者の要望に応じた公開など、研究資料としての活用

・他施設への貸し出し、学習教材や学校教育に資する資料としての活用

⑽ 調査研究業務

①地域の自然史解明、学芸員の専門分野に関する基礎的研究

＜新規項目＞

・希少鳥類の繁殖状況調査

＜継続項目＞

・三瓶火山の地質に関する調査研究

・石見銀山の地質学的研究

・天体の撮影と突発天体検出技術の向上

・太陽系外惑星のトランジット観測

・60cm反射望遠鏡分光器製作

・三瓶山地区のミヤコアオイ分布調査

・ふれあいの里生物調査

・生物方言からみた人と自然に関する調査研究

②地域の自然環境保全に関する調査研究

＜新規項目＞

・ダイコクコガネのモニタリング調査

・赤名湿地における動植物調査

＜継続項目＞

・草原性動植物の管理と保全、野外展示物としての管理手法の検討

③その他の調査研究

・埋没樹の保存に関すること

埋没樹の保存処理を行うにあたり、日常的な状態を目視によって確認する。

保存処理方法と将来計画について、国立文化財研究所等の専門機関と連携をとりつつ、県と協議して進める。

・利用動向などに関する博物館学的研究

来館者の動向調査(どんなスケジュールで、どこから来ているのか)

④学会等参加

各学芸員の専門分野にかかる学会、研究会等へ参加し、最新の知見の収集と情報交換を行う。

・地質：日本地質学会、第四紀学会、日本地学教育学会　ほか

・天文：PAONET総会(国立天文台)、日本公開天文台協会　ほか

・生物：日本鳥学会、日本昆虫学会、日本生態学会　ほか

⑤調査研究成果の公表・還元

調査研究により得られた成果は、さまざまな場面で公表し、県民への情報還元を進める。年3回の研究発表会では一般向けとして平易な内容で公表し、自然に関する情報発信及び普及啓発を行う。年1回刊行する「研究報告書」ではより専門的な内容で情報の公表を進める。

・三瓶自然館研究発表会（自然・環境学講座）

開催スケジュール

6月(会場：三瓶自然館)　仮テーマ「ここがおもしろい!石見銀山」

9月(会場：　〃　)　仮テーマ「三瓶の自然を探る」

12月(会場：館外)　仮テーマ「島根の自然環境を知ろう」

・三瓶自然館研究報告書の発行

年度末に発行し、館職員だけでなく、館外研究者の報告の掲載も進める。

(11)よりよい博物館を目指して

①博物館ボランティア等の育成と活用

・博物館ボランティアと協同した博物館活動の展開

・自然及び天体観察会の実施　・イベントの企画・実施　・情報誌の発行

・自然体験活動の企画・実施　・館内での来館者対応　・自然情報の収集

・自然観察プログラムの開発　・調査研究への参画

・博物館ボランティア研修の実施

・新規及び既存ボランティアに対する研修の実施

・博物館ボランティアの事務局運営支援

・事務局の運営

・費用弁償等の予算的措置

・ボランティア保険への加入

・参加調整

②博物館実習生の受け入れ

島根大学や他大学から博物館実習生を受け入れを行う。当財団の学芸員が指導にあたることで、さまざまな分野のカリキュラムが可能となり、多岐にわたる実習内容を提供する。

2－2　三瓶小豆原埋没林公園

(1)開園計画

①開園日（平成20年度開園予定日数304日）

条例で定められた埋没林公園の休園日は次のとおりである。

・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日（祝日の場合は翌平日）

・3、6、9、12月の第1月曜日から5日間

・12月29日から1月3日まで

○上記の内、次の日を来館者サービスのために開園する。

・平成20年4月30日（水）

・平成20年6月2日（月）、4日（水）～6日（金）

・平成21年1月2日（金）、3日（土）

○夏の企画展の開催期間を9月28日までとすることに伴い、次のとおり休館日を変更する。

平成20年9月1日（月）、3日（水）～5日（金）を開館とし、

平成20年9月29日（月）～10月3日（金）を休館とする。

②開園時間

次の日は条例で定められた埋没林公園の開園時間を1時間延長し、閉園時刻を午後6時とする。

・4月から10月までの毎週土曜日

・5月4日（日）、5日（月）

・8月13日（水）、14日（木）、15日（金）

＊合計35日

(2)展示

①埋没林の解説

来園者に対してスタッフによる埋没林の解説を行う。

②パネル展示

エレベーターホールにおいて、埋没林に関連する話題等のパネルを展示し、定期的に更新することで、新しい情報を提供する（埋没林の解説、近隣の観光情報、石見銀山情報等）。

(3)利用の促進

①石見銀山との連携

・大田市域の施設や商店等との情報交換を進め、石見銀山への観光客が地域に滞在するための具体的な情報発信を進める。

②イベントの実施

イベントによって話題を発信し、広報効果により集客を図る。

また、地元自治会、周辺施設と共同イベントを企画し、地域に密着した施設を目指す。

・開園日イベント（埋没林フェスティバル）　5月3日（土）に地元物産市、野点などを実施。

・ホタル観察会　当公園内をながれる小豆原川でホタル観察会を実施。6月21日（土）に実施。

・縄文の味体験　秋の山野でとれる食材を用いて、縄文の食卓を体験する。

2－3　ふれあいの里奥出雲公園

(1)開園計画

条例で定められたふれあいの里奥出雲公園の休園日は次のとおりである。

・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日（祝日の場合は翌平日）

・12月29日から翌年の3月31日まで

上記の内、次の日を来園者サービスのため開園する。

・平成20年4月30日（水）

(2)環境教育・学習事業の展開

①学習プログラムの実施と開発

・来園者が楽しみながら自然に親しめるセルフ型体験プログラムを提供する。

野外型ワークシート、クイズ型植物名札

・学校団体や社会教育施設と連携して、「見て、触れて、体験できる」プログラムの開発を行う。

竹林活用環境学習プログラム

・自然と上手につきあう、自然素材を利用した学習プログラムの開発を行う。

藍染め、草木染め体験

②学習活用のための園地整備

・来園者が、野外で積極的に体験することができる野外展示を心がけ、環境学習等の野外活動に活用できる園内の整備を行う。

・来園者が自由に自然に親しめる園地整備を行う。

③一般向け学習プログラムの提供

・イベントの実施

野草を味わう会（4月、5月）、かんたん藍染め入門（7月）、昆虫観察会（7月）

・ファミリー向けの竹林作業・活用体験事業の実施

野遊び探検隊（7月）

(3)一般来園者の対応

①各種プログラムの提供

当公園の特色を活かし、植物や昆虫の採取など直接自然に触れることで得られる基本的な原体験を重視し、来園者が楽しめるプログラムを提供する。

・ネイチャークラフトの提供

・山菜教室や四季折々の自然をテーマにした観察会の随時受け入れ

・観察や採集を通じた自然体験

②ドッグランの設置

ドッグランを設置し、新しい利用者層の開拓に努める。

(4)宿泊施設の運用

・ケビン、バンガローが、より魅力的な宿泊施設となるよう周辺を整備し、宿泊をともなったメニュー

開発を行う。

・ケビン宿泊の予約状況は、インターネットによる「しまね電子申請サービス」により、誰でも予約状況が確認できるようにする。

・ペット（犬）同伴の宿泊が可能であることを前面に出して広報する。室内同伴可能のケビンを設ける（棟数は限定とする）。

（５）園内整備

・「自然を上手に利用する」を念頭におき、利用者が五感による自然体験や野外活動を行いながら、自然を利用するマナーを学ぶことができるよう工夫する。

・植物園の整備：身近に見られる植物や県内に自生する稀少植物の生態展示を行い環境学習に利用する。（山野草園・資源植物園・ハーブ園・湿性植物園・日韓交流記念植物園）

2－4　三瓶山北の原野営場

(1)開場計画

①条例第13条第3項に基づく「休場日」以外の日(4月1日～11月30日)

条例に準じ、全施設とも全日営業とする。営業日数：244日

②条例第13条第4項に基づく休日変更により、同条第3項に基づく「休場日」(12月1日～3月31日。ただし、12月29日～1月3日を除く。)の間、次のとおり営業する。

※営業施設は利用者の安全と施設の保全の確保の点から考慮して条例で定める次の施設のみとし、過去実績による稼働が少ない火曜日を、毎週休場日に設定することで、人件費面での効率的な運営を図る。また、正月は2日から営業する。

・営業施設：ケビン、セントラルロッジ

・営業日数：101日(目標)

・休日設定：毎週火曜日及び年末年始(12/29～1/1)、その他研修等休業

(2)イベント等の企画

来場者のニーズに合ったイベントを実施し、満足度の向上を図るとともにリピーターの確保に努める。また、自然学習の場として三瓶自然館と一体的に取り組み、新たなイベントの開発も行う。

①ビギナーズ・キャンプ・セミナー

・キャンプ未経験者を対象にテントの張り方、キャンプ用品の使い方、キャンプ生活技術、自然の中での救急法などの学習し、新たな利用者層の増加を図る。

②古代キャンプ

・火おこし体験や竹筒を使ったご飯づくりなど、ふだんは見られないキャンプメニューを体験する。

③キャンプ場フェスティバル

・手作りパン焼き体験、栗ご飯、焼き芋の販売などで、リピーターへのサービスと収益を図るとともに、ケビン無料見学、キャンプファイヤーなどで新たな利用者への施設紹介を行う。

(3)宿泊施設、キャンプ場の運用

・インターネットにより、宿泊の予約状況が誰でも確認できるようにする。

・Eメール、FAXでも予約を受け付け、利用者が予約しやすくする。

(4)その他のサービス

・大田圏域の中小企業を対象に、福利厚生の企画としてデーキャンプやバーベキューの企画提案を行い、地域に根ざした施設としての展開をはかる。

・全面禁止であったペット同伴の宿泊について、平成19年度はケビン1棟を試験的に犬に限定して解禁した。愛犬家のニーズがあったため、本年度も引き続き継続する。

・平成19年度好評であった島根和牛のバーベキュー、冬季の鴨鍋付き宿泊プランなど、キャンプ場、ケビン、ロッジ利用者へのサービス向上として、食材提供などの企画を継続する。

・季節に応じたオープンカフェ、モーニングサービスの提供、昼間のケビン利用など、ケビンやロッジの新たな利用法について検討する。

3．接遇･サービス

(1)受付、案内、誘導

来館者に「三瓶自然館あるいはそれぞれの附属施設に来て良かった」「また来たい」という気持ちになっていただけるよう、更なるホスピタリティの向上、充実を図ることはもとより、より良い受付･案内･誘導に関する対応の検討を進める。

(2)アテンダントによる対応

発券業務の他、館内の案内、登山の案内、近隣施設などの観光案内等様々な場面において迅速で丁寧な対応を行う。障害者や年輩の方々に対しては、車いすの貸出やエレベーターへの案内などきめ細やかな対応を行う。

(3)学芸スタッフによる対応

来館者や外部からの電話による質問等には丁寧な対応をとるほか、団体向けのレクチャーや展示案内などニーズに応じた対応を図ることとする。

(4)マイクロバスの活用

･三瓶自然館及び付属施設を利用する学校団体などの送迎
･イベント開催時の大田市駅等からの送迎
･館外での観察会などを行う場合の利用
･その他必要な場合の運行

(5)友の会の運営、拡充

三瓶自然館が多くの県民に支持されるよう「三瓶自然館友の会」を組織･運営する。会員にはイベント参加への特別枠の設定、ミュージアムショップの割引などの特典を設け内容の拡充を図り、会員数の拡大を目指す。

4．広告宣伝

(1)重点目標

･広島県を中心とした山陽方面からの集客増
･学校教育との連携による小中学生の利用増
･地域連携による魅力アップ事業の展開
･新たに関東･関西方面からの誘客活動
･石見銀山、出雲古代歴史博物館と連携した展開

(2)ＰＲ活動

①小中学生の利用増

･県内の各教育事務所、教育委員会、学校を訪問して三瓶自然館の利用方法や事業のＰＲを行う。
･ワークシートの活用など各学校に対応した利用プランを提案し、利用増を図る。

②山陽方面からの集客増

・広島市で開催される「島根ふるさとフェア」などのイベントに積極的に参加し、知名度の向上に努める。

・エージェントを訪問して三瓶自然館のＰＲを行い、山陽方面からのツアーの開発などを目指す。

・特別企画展開催時などには広島県にテレビスポットＣＭを流すほか、新聞やタウン情報誌を活用して個人やグループの誘客を図る。

(3)情報発信

①インターネットホームページにおける情報発信

三瓶山や島根県の自然情報について、その最新情報をインターネットホームページ上で随時発信する。

②マスコミ等への情報発信

自然情報をマスコミ等へ積極的に提供し、三瓶自然館の存在をアピールすることを目指す。

③ミュージアムニュースの発行

三瓶山や島根県の自然情報やイベント等の事業を紹介したミュージアムニュースを発行し、学校、公民館、観光施設、友の会会員等への配布して情報発信を行う。

④他施設等ホームページへの情報提供

他施設や、周辺自治体等のホームページへの情報提供を積極的に行い、多角的な情報発信を図るとともに、他機関との連携を深めることで情報収集を図る。

5．施設の管理

(1)施設管理の基本方針(平成17年度～平成21年度)

①慣例にとらわれない対応

業務仕様及び指定管理申請時の長期事業計画に準じながら、常に創意、工夫を凝らし、慣例にとらわれず管理業務にあたり、管理コストの削減を図る。

②県民の財産を預かっている意識

指定管理者制度により収益性が認められたとはいえ、常に公益性を重視し、県民の財産を預かっている意識を持って管理にあたる。

③故障の前の対応

施設、設備の日常での点検を注意深く行い、トラブルが発生する前に早期発見、早期対応を図り、中･長期的な管理コストの削減を目指す。

④安全管理

管理においては、各施設の来館者(来園者)、利用者の安全確保、危機管理を最優先事項とし、指定管理者としての注意義務を果たす。

⑤エコオフィス対策

館管理費の削減だけでなく、財団の趣旨である地球環境保全に貢献することを目指し、冷暖房の調整による省エネ、エコマーク商品の優先使用、詰め替え可能な文具類の利用、再生紙の利用や裏紙の再利用などを進め、環境負荷の少ない運営を目指す。

(2)平成20年度での特記事項

①危機管理について、現在の危機管理基本計画、各部署毎の取扱要項等を整理・編集し、当施設における統一的な危機管理マニュアルの策定に取り組む。併せて、当施設・設備の老朽箇所や危機箇所等を洗い出し、島根県とともに改善・改修を検討する。

②管理業務におけるこれまでの成果を整理するとともに、管理手法等のマニュアル化等を図り、画一的な業務レベルの維持を目指す。

③管理費のコスト縮減については、目標としていた平成16年度比14%減を既に達成したが、引き続き節約に努める。しかしながら近年での原油価格高騰により、光熱水費、燃料関係は縮減が困難となっているため、消耗品費を中心にコスト縮減を図り、全施設の管理費として対前年(当初予算)比2%減を目指す。

(3)有資格者の配置

法律及び業務仕様により、三瓶自然館及び付属施設に配置が義務づけられている有資格者は次のとおりとする。なお、異動等があった場合は速やかに再配置する。

・防火管理者(三瓶自然館)……帯刀公平(企画情報課)
・　〃　(埋没林公園)……熊谷正浩(　〃　)
・　〃　(ふれあいの里)……板垣睦子(学芸課)
・　〃　(北の原野営場)……押越正雄(企画情報課)
・危険物取扱者……石田浩二(総務課)
・安全運転管理者……　〃　(　〃　)
・車両整備管理者……廣岡　朗(　〃　)
・ゴンドラ管理者……中村唯史(企画情報課)

6．野外環境（フィールド）の管理

(1)国立公園地区としての管理

北の原周辺のフィールドは、国立公園内に位置することから、国立公園法を遵守し的確な管理に努める。草原の草刈り作業にあたっては、自然公園法の指定植物やレッドデータブックの希少動植物を意識し、細心の注意をもって作業を実施する。

(2)利用者に配慮した管理

館周辺の遊歩道や登山道、自転車道（ヘルシートレイリングコース）などについては何よりも安全・安心な整備を心がけ、いつでも円滑な利用ができるように、日常的な管理に努める。とくに台風、積雪の直後などは、倒木、危険木が確認されやすいため、すみやかな見回り、関係機関と調整しての処理にあたる。

Ⅲ　環境保全・温暖化対策事業（松江事務所事業）

1．事業概要

平成20年度より、これまで財団法人島根ふれあい環境財団21が実施してきた地球温暖化対策をはじめとする環境事業部門を当財団が継承することとなった。そこで、環境問題に取り組んでいる団体や法人への助成や身近なところから温暖化防止に取り組む「環境家計簿」、「マイバッグ運動」など、県民の環境問題に対する意識の向上とアクションを促す事業を「環境事業」として展開する。「環境事業」は新年度から設置する予定の松江事務所を中心に実施することとする。

新たに設置する松江事務所が中心となって事業を実施するが、三瓶自然館との連携も密にとることにより、効率的かつ内容の濃い事業展開を図る。

2．交流連携事業

予算：1,690千円

概要：県西部を中心に、環境問題に取り組む団体のネットワーク形成や、運動の広がりを目指す事業を展開する。

3．情報収集・提供事業

予算：384千円

概要：環境関係情報を収集し、県民にわかりやすく提供する。ホームページや三瓶自然館の情報紙「さんべ発」などを利用した情報提供を行う。

4．活動支援・助成事業

予算：16,459千円

概要：県内で活動しているボランティア団体やNPO法人、企業等が行う環境保全活動等に、その活動に必要な経費の一部を助成する。

5．人材育成事業

予算：370千円

概要：12名のしまね環境アドバイザーを県民や事業者が実施する研修会等に派遣する。

6．普及啓発事業

(1) 環境フェスティバルの開催

予算：3,490千円

概要：地球温暖化防止と循環型社会の形成をテーマにしたイベントの開催。20年度は、毎年三瓶で秋に実施している「さんべ祭」を組み合わせた展開を図る。

(2) もったいない生活日記コンクールの開催

予算：1,457千円

概要：小学生を対象に8月にもったいない生活日記を募集し、親子での環境への取り組みを促す。

7．環境学習事業

予算：2,000千円

概要：財団法人島根ふれあい環境財団21の事業を継承するにあたり、当財団の持つ自然環境についての高い見識を活かした新しい環境学習事業を、3年計画で構築する。20年度はその初年度となる。

8．CO2削減対策事業

予算：6,000千円

概要：県民の省エネルギー・3Rなどの環境配慮行動を、企業、団体、行政等、県全体で応援し二酸化炭素排出量の削減を目指す。

9．地球温暖化対策事業（地球温暖化防止活動推進センター業務）

(1) 環境家計簿運動の推進

予算：3,880千円

概要：平成17年度から実施されている環境家計簿（エコライフチャレンジしまね）の推進を図る。参加者からの家庭でのエネルギー使用報告に基づき診断結果を作成して発送する。

(2) 島根県地球温暖化対策協議会家庭部会の運営

予算：6,321千円

概要：家庭部会運営委員会の開催の他、県民の地球温暖化防止への関心を高めるため「島根地球温暖化防止活動県民運動」を展開する。具体的には、マスコミと連携した「省エネ生活キャンペーン」「エコドライブ推進キャンペーン」などを実施する。

(3) 3R推進事業

予算：3,753千円

概要：地球温暖化防止活動の気運を盛り上げ、多数の県民が参加できる運動として、マイバッグキャンペーンを実施する。

(4) 地球温暖化防止活動推進員研修

予算：4,000千円

概要：平成18年に島根県が委嘱した118名の島根県地球温暖化防止活動推進員に対し、実践研修を県内各地で開催する。

(5) 地球温暖化防止活動推進センター連絡会業務

予算：264千円

概要：全国の推進センター連絡会や中四国ブロックに参加し、情報交換を行う。

(6) 一村一品知恵の環事業

予算：5,500千円

概要：地域で活動している地球温暖化防止の活動を掘り起こし、優秀な取り組みを紹介していくことにより地球温暖化防止のムーブメントを起こしていく。19年度から3年計画で環境省が実施している事業。

10. 島根県地球温暖化対策協議会運営業務

予算：2,265千円

概要：島根県が設置している島根県地球温暖化対策協議会の事務局業務。

Ⅳ　調　査　研　究　事　業

1．事業概要

当財団における調査研究は、島根県の自然史の解明、地域の自然環境保全に資することを目指して、動植物など生物系・自然史地学系及び天文分野などの学芸員が調査研究活動にあたっている。また、研究に要する標本・資料類の収集・活用も、博物館の基本的機能として、各分野毎に進めている。これらの業務は、島根県立三瓶自然館の指定管理者として仕様に定められた使命でもあり、かつ当財団の存在意義でもあるため、今後も積極的に進めていく。

平成20年度も引き続き、指定管理者として実施する調査研究事業のほか、当財団の趣旨にあった調査研究・資料収集事業を受託・協力し、当該事業のさらなる充実をはかる。

2．指定管理業務での調査研究（再掲）

(1)地域の自然史解明、学芸員の専門分野に関する基礎的研究

①新規項目

・希少鳥類の繁殖状況調査

②継続項目

・三瓶火山の地質に関する調査研究
・石見銀山の地質学的研究
・天体の撮影と突発天体検出技術の向上
・太陽系外惑星のトランジット観測
・60cm反射望遠鏡分光器製作
・三瓶山地区のミヤコアオイ分布調査
・ふれあいの里生物調査
・生物方言からみた人と自然に関する調査研究

(2)地域の自然環境保全に関する調査研究

①新規項目

・ダイコクコガネのモニタリング調査
・赤名湿地における動植物調査

②継続項目

・草原性動植物の管理と保全、野外展示物としての管理手法の検討

(3)その他の調査研究

①埋没樹の保存に関すること

・埋没樹の保存処理を行うにあたり、日常的な状態を目視によって確認する。
・保存処理方法と将来計画について、国立文化財研究所等の専門機関と連携をとりつつ、県と協議して進める。

②利用動向などに関する博物館学的研究

・来館者の動向調査(どんなスケジュールで、どこから来ているのか)

(4)学会等参加

各学芸員の専門分野にかかる学会、研究会等へ参加し、最新の知見の収集と情報交換を行う。

・地質：日本地質学会、第四紀学会、日本地学教育学会　ほか

・天文：PAONET総会(国立天文台)、日本公開天文台協会　ほか

・生物：日本鳥学会、日本昆虫学会、日本生態学会　ほか

(5)調査研究成果の公表・還元

調査研究により得られた成果は、さまざまな場面で公表し、県民への情報還元を進める。年3回の研究発表会では一般向けとして平易な内容で公表し、自然に関する情報発信及び普及啓発を行う。年1回刊行する「研究報告書」ではより専門的な内容で情報の公表を進める。

・三瓶自然館研究発表会（自然・環境学講座）

開催スケジュール

6月(会場：三瓶自然館)　仮テーマ「ここがおもしろい!石見銀山」

9月(会場：　〃　)　仮テーマ「三瓶の自然を探る」

12月(会場：館外)　仮テーマ「島根の自然環境を知ろう」

・三瓶自然館研究報告書の発行

年度末に発行し、館職員だけでなく、館外研究者の報告の掲載も進める。

3．その他の調査研究

(1)ウスイロヒョウモンモドキ保護業務（グリーンワーカー事業）（予定）

①事業概要

委託者：環境省　予定契約額：285千円

環境省のグリーンワーカー事業を受託し、三瓶山に生息するウスイロヒョウモンモドキの保護活動を進める。幼虫の食草の植栽、生息地創出のための草刈り、個体数調査などを実施予定である。

②事業を実施するうえでの目標

・ウスイロヒョウモンモドキの生息地の維持と拡大

③実施計画

・4月　委託者との契約、年間計画の作成

・6～7月　個体数調査、生息地創出のための草刈り

・9月～　生息地創出のための草刈り

・12月　事業報告と精算

(2)ウスイロヒョウモンモドキ生息状況調査業務（予定）

①事業概要

委託者：環境省　予定契約額：497千円

三瓶山に生息するウスイロヒョウモンモドキの生息状況について調査を行う。主に個体数調査、越冬状況調査などを行う予定である。

②事業を実施するうえでの目標

・ウスイロヒョウモンモドキの生息状況の把握

③実施計画

・4月　　委託者との契約、年間計画の作成

・5月～　　個体数調査、生息地創出のための草刈り

・3月　　事業報告と精算

(3)三浦標本整理事業（予定）

①事業概要

委託者：浜田市　　予定契約額：696千円

三浦氏が収集した昆虫標本の整理を行う。

②事業を実施するうえでの目標

・展示や博物館資料として資する状態への整理

③実施計画

・4月　　委託者との契約、年間計画の作成

・5月～　　整理作業

・3月　　事業報告と精算

(4)みんなで調べるしまねの自然調査業務2008（予定）

①事業概要

委託者：島根県　　予定契約額：2,274千円

県民参加型の生物調査を行い、自然環境保全への普及啓発をはかる。

②事業を実施するうえでの目標

・参加者数1,500名を目指す。

③実施計画

・4月　　委託者との契約、年間計画の作成

・5月～　　参加者の募集、調査の開始

・12月　　事業報告と精算

⑸ 石見銀山地区生物モニタリング調査（予定）

①事業概要

委託者：島根県教育委員会　　予定契約額：未定

世界遺産登録された石見銀山地区を対象に、自然環境とくに動植物の現況についてモニタリング調査を行う。

②事業を実施するうえでの目標

・石見銀山地区における生物相の把握

③実施計画

・4月　　委託者との契約、年間計画の作成

・適期　　現地調査

・3月　　事業報告と精算

⑹ 収蔵品データ整備助成事業（予定）

①事業概要

委託者：NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク　　予定契約額：未定

収蔵標本のデータベース化への助成事業であり、データ提供を行う。

②事業を実施するうえでの目標

・植物標本3000件分のデータベース化を目指す。

③実施計画

・8月　　委託者との契約、年間計画の作成

・9月～　　データ整備

・3月　　事業報告と精算

V　環境教育・環境学習事業

1. 事業概要

本事業ではこれまで、環境保全への意識の高揚とともに、現在と将来の環境に意識をもった人材を育成することを目指してきた。引き続き、当財団および三瓶自然館の活動を通じて、豊かな環境を次世代へ残す必要性、そのための行動について意識啓発を図る。

本事業を推進するにあたり、これまでの「三瓶山」と「ふれあいの里奥出雲公園」のふたつのフィールドが有する特性を有効に活用するとともに、新たに加わる松江事務所の事業も加え、自然環境保全だけでなく地球環境保全にも対象を広げていく。三瓶山では、多様で豊かな自然環境と国立公園としての理念を活用した自然観察や解説を行う。ふれあいの里奥出雲公園では、里山的な循環型の自然利用を活用して、人と自然の関わりを学ぶプログラムを実施する。松江事務所では、三瓶自然館と連携しながら、環境保全、地球温暖化防止対策を進めていく。

その他、外部からの依頼に応じて、環境教育・環境学習に関連する事業を受託・実施する。

2. 子どもパークレンジャー事業（予定）

委　託　者：環境省
予定契約額：500千円

(1)事業概要

子ども達が行う各種環境保全活動。環境省の事業を請け負い、自然保護事務所と連携して開催する。この事業では、環境省のレンジャー業務の体験を通じて、子どもたちが自然保護の大切さや自然とのつきあい方、生き物に対する思いやりの心などを育むことを目的とする。

(2)事業を実施するうえでの目標

・年間、のべ60名の参加

(3)実施計画

・4月　　委託者との契約、年間計画の作成、募集チラシの作成、参加者募集
・5～6月　募集締め切り、登録者の決定
・6月～　　年2回の活動(1泊2日×2回、または1泊2日・日帰り1回ずつ)
・3月　　事業報告と精算

3．ふれあいの里奥出雲公園における環境教育･学習事業(再掲)

⑴ 学習プログラムの実施と開発

･来園者が楽しみながら自然に親しめるセルフ型体験プログラムを提供する。

野外型ワークシート、クイズ型植物名札

･学校団体や社会教育施設と連携して、「見て、触れて、体験できる」プログラムの開発を行う。

竹林活用環境学習プログラム

･自然と上手につきあう、自然素材を利用した学習プログラムの開発を行う。

藍染め、草木染め体験

⑵ 学習活用のための園地整備

･来園者が、野外で積極的に体験することができる野外展示を心がけ、環境学習等の野外活動に活用できる園内の整備を行う。

･来園者が自由に自然に親しめる園地整備を行う。

⑶ 一般向け学習プログラムの提供

･イベントの実施

野草を味わう会（4月、5月）、かんたん藍染め入門（7月）、昆虫観察会（7月）

･ファミリー向けの竹林作業･活用体験事業の実施

野遊び探検隊（7月）

4．講師派遣による学校教育等への協力

学校団体、公民館などの社会教育施設、行政機関、市民グループなどからの要請に応じて、学芸員を派遣し、学校教育･社会教育の推進に寄与する。

5．子ども向けプログラム等の提供

(1)サヒメル文庫

地域の子どもたちの環境意識の向上、地域への貢献を目指して、三瓶地区の小学校への書籍を寄贈する。池田小学校、志学小学校、北三瓶小学校の3校を予定。

Ⅵ　付随事業（物販・貸出事業）

1．物販事業

(1)三瓶自然館(ミュージアムショップ「ひめのが」)

・自然系博物館の「ミュージアムショップ」として、自然系グッズの販売、三瓶自然館オリジナルキャラクター(テンピー)を活用したオリジナルグッズ類の開発、販売を行う。

(2)小豆原埋没林公園

・小豆原埋没林公園整備時に排出された小豆原埋没樹(発生材)を活用した記念品の製作、販売を行い、小豆原埋没林のＰＲを図る。

・小豆原埋没樹（発生材）の枯渇に備え、物産等の商品開発を図る。

(3)ふれあいの里奥出雲公園

・三瓶自然館、三瓶北の原野営場と連携してアウトドアグッズ類を販売するほか、しまね和牛の予約販売を行い、バーベキュー利用者の促進をねらう。

・ドッグランの運営にあわせて、犬同伴の宿泊料金とドッグラン利用料金を設定するとともに、継続的に設備の充実を図る。

(4)三瓶山北の原野営場(キャンパーズショップ北の原)

・キャンプに必要な消耗品や簡易的な食料などを販売し、来場者のアウトドアライフをサポートする。

・今年度は季節に応じたオープンカフェ、モーニングサービスの提供、昼間のケビン利用などについて検討する。

2．貸出事業

(1)レンタサイクル(三瓶自然館)

・三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原)を活用するため、自転車の貸出を行う。平成20年度では、前年度に続き老朽化した自転車の更新も図る。

(2)アウトドア用品貸出(ふれあいの里、北の原野営場)

・キャンプ用品を持たない方でも気軽にキャンプが楽しめるよう、用品の貸出を実施する。

(3)冬期遊具貸出

・主に北の原野営場において、クロスカントリースキー、スノーシュー等、雪上遊具の貸し出しを行い、冬期の利用を促進する。

Ⅶ　地域との連携、その他の事業

1．地域との連携

(1)石見銀山地域との連携推進

石見銀山遺跡は、平成19年に世界遺産に登録され、今後も当地域が県央の観光拠点となることが予想される。そこで石見銀山遺跡地域との連携を進め、三瓶山地区への集客を図る。

・石見銀山地域における調査・事業への参画

・銀山－三瓶山周遊ルートの提案

(2)出雲大社地域及び古代出雲歴史博物館との連携推進

出雲大社地域への観光客、観光業者を対象にしたＰＲ活動の推進、観光コース提案により、三瓶山地区への集客を図る。また、古代出雲歴史博物館との博物館的連携を進める。

・観光拠点（例：キララ多岐）におけるＰＲ事業。

・出雲大社地域との情報交換体制の確立、古代出雲歴史博物館との連携。

(3)国立三瓶青少年交流の家との協力

・青少年交流の家を利用する研修生の活動、さんべ祭やイベントなどに連携して取り組む。

(4)市民グループとの連携による環境保全

・姫逃池の景観の保全、県内の稀少植物の保全など、市民や町民のグループと連携して活動を行う。

(5)近隣小中学校との連携

・学校教育に三瓶自然館を活用するプログラムを教員と共同開発し、実践する。

2．その他の事業

(1)ＮＰＯ法人西日本自然史系博物館ネットワーク

・特定非営利活動法人である同ネットワークに協力し、共同事業や情報の交換・共有に取り組む。

(2)サヒメル・アクアス・ゴビウス自然系三館交流

・県内の自然系博物館三館の事務局として意見交換の場を設定し交流を促進する。

別紙１　平成20年度三瓶自然館開館計画

4

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	24	25
27	28	29	30			

5

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

凡例：　24 休館日　　26 企画展開催期間

別紙2　夏の企画展について

【タイトル】「びっくり!どっきり!大化石展－恐竜!マンモス!最古のヒトの化石!－」（案）

【概　要】夏の企画展の開催期間（7月～8月）は、夏休みと重なり、多くの家族連れが来館する。平成20年夏の企画展では、子どもに人気の「化石」をテーマとすることで、「集客効果」と来館者の「満足度アップ」を狙う。化石をたくさん並べ、化石をとおして地球環境の変遷を伝えられるような企画展としたい。

【日　程】平成20年7月4日（金）～9月中旬

【主　催】財団法人しまね自然と環境財団、島根県立三瓶自然館

【共　催】（予定）中国新聞社、山陰中央新報社

【趣　旨】近年、地球温暖化をはじめ、さまざま環境問題がクローズアップされている。地球環境を現在から未来へと予測する鍵は、過去の地層の中に隠されている。地球が生まれて46億年。自然環境は変化を続け、地球に生きる生命も変化を続けている。ある生物は現在も繁栄し、ある生物は歴史のなかで姿を消していった。生物界ではカンブリア紀以降、大きいものだけで5つの大量絶滅がおきている。そして、それらを証明しているのが化石である。最近では兵庫県での恐竜の化石の発見が相次いでいるが、島根県の宍道湖付近は古くから、化石の産地として全国的にも有名であった。今回の企画展では、化石をとおして、地球の歴史や生物の進化、地球環境の変化を考える契機としたい。また、島根県ではめったに目にすることのない恐竜などの大型化石や人類誕生の謎にせまる類人猿から古人類関連の著名な化石に触れる機会としたい。

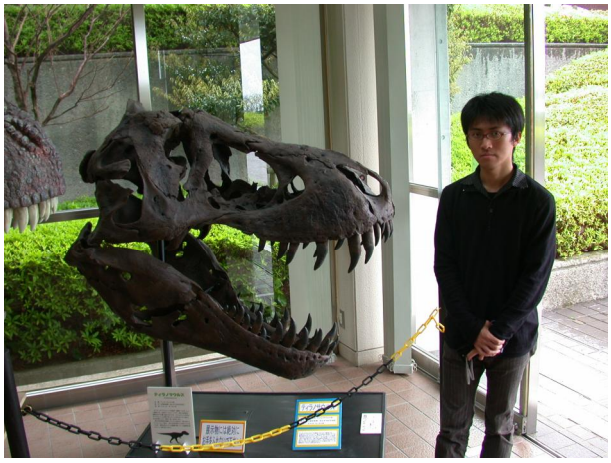
【展示】
1. 化石のトリビア
2. 生きた化石とその化石
3. 進化を示す化石
4. 中生代の恐竜たち
5. 中国地方の化石
6. 日本海形成期の古生物たち
7. 人類誕生：その前夜と黎明
8. 触われる化石

【目玉展示】
・ティラノサウルスほか恐竜骨格標本（天草市立御所浦白亜紀資料館）
・最古の人類（オロリン）のレプリカなど（島根大学　澤田順弘教授）
・マンモス全身骨格標本（豊橋市立自然史博物館）
・日本最古のワニ足跡（島根県産）
・日本最大のカメ化石（島根県産）

【その他】

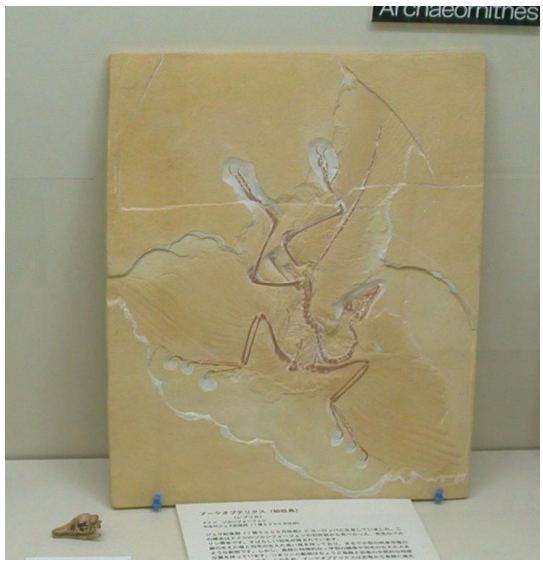
化石販売、大型ドーム映像、体験コーナー、体験イベント、クリーニング室の設置・実演

世界最大級のアンモナイト（レプリカ）
徳島県立博物館所蔵

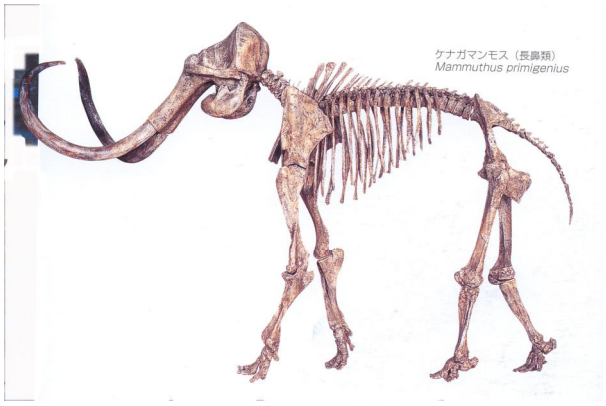


ティラノサウルス頭骨標本
天草市立御所浦白亜紀資料館所蔵

ハラサウロロウス頭骨標本（レプリカ）
天草市立御所浦白亜紀資料館所蔵



始祖鳥（レプリカ）
天草市立御所浦白亜紀資料館所蔵



ケナガマンモス全身骨格標本（レプリカ）
豊橋市立自然史博物館所蔵

別紙3　平成20年度 イベント一覧表

月	期　日	タイトル	内　容
4月	3/20(木)～5/12(月)	春の企画展「森にひそむ忍者たち」	自然界のカムフラージュや擬態など、生きものたちの「だます」「隠れる」不思議を紹介。
	4/20(日)	ジュニア学芸員「3,500年前の生きものを発掘しよう」	三瓶火山の噴火で埋もれた3500年前の土の中から、当時の昆虫や植物を発掘体験。
	4/26(土)	ふれあいの里野草を味わう会	野山を歩きながら山菜を採り、天ぷらにして食べる。ふれあいの里ならではのイベント。
	4/27(日)	早春の男三瓶山を歩く	男三瓶山頂で行われる山開き協賛イベント。自然林を観察しながら山頂をめざす。
	4/29(火)	北の原お散歩ツアースペシャル「オキナグサ観察会」	北の原草原で見頃を迎えたオキナグサを観察しながら、三瓶山の自然を紹介。
5月	5/3(土)	埋没林埋没林フェスティバル	埋没林公園の開園記念イベント。地元との協同によりお茶の野点と地元物産市を開催。
	5/11(日)	ふれあいの里野草を味わう会	野山を歩きながら山菜を採り、天ぷらにして食べる。ふれあいの里ならではのイベント。
	5/25(日)	カキツバタまつり	カキツバタの花期にあわせ、俳句や短歌、写真撮影会、観察会、野点を実施。
6月	6/1(日)	自然・環境学講座「ここがおもしろい石見銀山」	石見銀山の魅力や不思議について、三瓶自然館ならではの切り口で紹介。
	6/7(土)～8(日)	キャンプ場 ビギナーズ・キャンプ・セミナー	北の原キャンプ場を会場に、テントの張り方など、基本的な技術を学べるセミナー。
	6/21(土)	埋没林埋没林の里でホタル観察	埋没林公園を流れる小豆原川でのホタル観察会。
	6/29(日)	ジュニア学芸員「化石探検隊」	出雲市小田海岸で実施する化石探し。夏の企画展のプレイベント。
7月	7/4(金)～9/28(月)	夏の企画展「びっくりどっきり大化石展」	ティラノサウルスの全身骨格のほか、アンモナイトや三葉虫などの化石が大集合。
	7/6(日)	ふれあいの里野遊び探検隊	ふれあいの里の竹を使って、切って、作って、食べて、演奏して・・・。いろんな竹を使った野遊びを体験。
	7/19(土)	ちびっ子きらきらコンサート	館外のグループなどを招いて行う、ビジュアルドームを使った子ども向けのコンサート。
	7/20(土)・21(日)	ふれあいの里かんたん藍染め入門	ふれあいの里で栽培している藍を使ったかんたん藍染めの入門編。
	7/26(土)	ふれあいの里昆虫観察	ふれあいの里奥出雲公園での昆虫観察。昆虫標本作りと夜の昆虫観察。
8月	8/9(土)	夏の夜の昆虫観察	夜の昆虫観察会。さまざまなトラップを使って夜に活動する昆虫を集め、観察する。
	8/15(金)	北の原お散歩ツアースペシャル「秋の七草観察会」	北の原に咲く「秋の七草」など、秋の草花を観察する。

9月	9/7(日)	自然・環境学講座	環境に関する話題をわかりやすく紹介。
	9/20(土)～21(日)	キャンプ場古代キャンプ	火おこし体験や竹筒を使ったご飯炊きなど、ふだんは見られないメニューを体験。
	9/18(木)～21(日)	大田市科学作品展	大田市内の小中学生の科学作品を紹介。
	9/20(日)	プラネタリウムコンサートスペシャル「岩田英憲パンの笛コンサート」	パンフルート演奏者を招いて、プラネタリウムとジョイントしたコンサートを開催。
10月	10/5(日)	埋没林埋没林秋祭り	埋没林の里小豆原の秋祭り。秋の山野幸を試食しながら、縄文の味を体験。埋没林発見、10周年記念。
	10/12(日)	ジュニア学芸員「プラネタリウムでしゃべってみよう」	プラネタリウムの解説体験。優秀者は3/23に本格的なプラネタリウム投影。
	10/19(日)	ぐるっと三瓶くにびきウオーク	秋風が吹く三瓶山の山麓を一周するウオーキング。
	10/25(土)～26(日)	さんべ祭&キャンプ場フェスティバル	三瓶青少年交流の家、木工館との共催による三瓶山北の原地区の恒例イベント。
11月	11/1(土)～1/31(土)	秋の企画展「リアル鳥類図鑑（仮）」	身近な鳥から、めったに見られない鳥まで、様々な鳥のはく製が大集合。
	11/2(日)	ジュニア学芸員「飛ぶタネのひみつ」	植物のタネに隠された飛ぶひみつを紹介。
	11/9(日)	ゆっくり歩く紅葉の室ノ内	深まりゆく紅葉を眺めながら、秋の三瓶山「室ノ内」周辺をゆっくりと歩きます
12月	12/7(日)	研究発表会&移動博物館in松江	松江市内を会場に研究発表会と移動博物館を開催。
	12/23(火)	ウインターコンサート	出演者を募集して行う参加型コンサート。
1月	1/2(金)～3(土)	お正月イベント	もちつき、書き初め、かるた取り、福引きやクイズラリーなどを実施。
2月	2/7(土)～8(日)	サヒメル雪祭り	雪上ゲーム大会や歩くスキーでの観察会を実施。
	2/21（土）	北の原ファンタジー	ドラマ仕立てのストーリーに沿ってクイズやゲームを楽しむ子ども向けイベント。
3月	3/22(日)	ジュニア学芸員「ジュニア解説員のプラネタリウム投影」	選抜されたジュニア解説員によるプラネタリウムの投影会。

【定例・定期イベント】

・北の原お散歩ツアー	北の原一帯で、季節の風景を楽しむ自然観察入門。	4月～11月の土曜日
・プラネタリウムコンサート	プラネタリウムの星空の下で楽しむCDコンサート。	原則、毎月第3土曜日と翌日曜日
・三瓶ミニツアー	三瓶山周辺の見どころをマイクロバスで案内。	5/3～4、8/13～14
・埋没林展示ガイド	埋没林展示のスポットガイド。	毎週土、日、祝
・親子で作ろう工作教室	簡単なネイチャークラフト（工作）を実施。	祝日、夏休みの日曜日

【天体観察関連】

・特別天体観察会	特異な天文現象等に合わせて実施する観察会。	年10回実施
・天文ミニガイド	太陽の観察や望遠鏡・天文展示の解説。	毎週土、日、祝

【その他】

※自然観察会	学芸員やインタープリター（ボランティア）による自然観察。事前申込みにより実施。
※学芸員の派遣	学校団体、公民館活動を対象とした学芸員の派遣。
※県民ギャラリー	自然、環境に関わる写真・標本など、県民の作品を展示。

別紙4　平成20年度天文関連イベントについて

プラネタリウム関連

☆通常投影

開始時刻	日、月、水、木、金曜日	土曜日
10:00	(全天周映画)	(全天周映画)
10:30	テーマ番組	テーマ番組
11:00	(全天周映画)	(全天周映画)
11:30	星座案内 (解説投影)	星座案内 (解説投影)
13:30	(全天周映画)	(全天周映画)
14:00	テーマ番組	テーマ番組
14:30	(全天周映画)	(全天周映画)
15:00	星座案内 (解説投影)	星空案内 (解説投影、次項参照)
15:30	(全天周映画)	
16:00	テーマ番組	(全天周映画)

団体予約等により、スケジュールが変更になることがあります

☆星空案内 (毎週土曜日　15:00～15:45)

その日に見える星空のほか天文・宇宙の話題を天文職員がライブ解説します。

☆学習番組 (予約により随時、25～45分)

「中学生向け」、「小学生向け」、「幼児向け」を団体の希望に合わせ投影します。

☆天体観察会での投影

定期天体観察会・予約天体観察会で雨天・曇天により天体が観察できないとき、それに変わるプログラムとして利用者の希望により解説投影します。

☆プラネタリウムコンサート (毎月第3土曜日　19:00～19:50、翌日曜日　12:30～13:20)

(ただし、7月21日、9月15日、2月16日はスペシャルイベント)

毎回テーマを決めて、プラネタリウムの星空の下で楽しむCDコンサートです。

天体観察会関連

☆定期天体観察会（毎週土曜日開催、各回約45分）

開始時刻

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	19:00	19:00	18:00	18:00	18:00	19:00	19:00
21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	20:00	20:00	19:00	19:00	19:00	20:00	20:00

☆特別天体観察会

開催日	タイトル	内容
5月4日（日）、5日（火）	ゴールデンウィーク天体観察会	連休中に行う観察会。見ごろの土星などを観察します。
8月7日（木）	伝統的七夕	旧暦七夕にあわせた観察会。月や天の川の観察をします。
8月13日（水）～15日（金）	夏休み天体観察会	盆期間の観察会。月や木星などを観察します。
9月14日（日）	中秋の名月	旧暦8月15日のお月見会。月を見ながら茶菓も楽しみます。

☆天文ミニガイド（毎週土曜日・日曜日・祝日　13:30～14:00）

新館5階天文コーナーにおいて、太陽の観察や望遠鏡・天文展示の解説を行います。

☆天文教室

天体観測の入門教室です。

開催日	タイトル	内容
10月3日（金）（予備日：31日）	はじめてのデジタル天体写真	冷却CCDカメラなどを使い、天体画像の撮影に挑戦します。
10月12日（日）	デジタルカメラで月を撮ろう	参加者のデジタルカメラで月を撮影します。
11月2日（日）	双眼鏡で星を見よう	手軽な双眼鏡で天体を観察する方法を学びます。

その他イベント

☆「宇宙の日」小・中学生作文絵画コンテスト（募集期間5月～7月、表彰式10月12日（日））

文部科学省、国立天文台、JAXA等と共催。宇宙をテーマにした作文・絵画を募集し、優秀作を選んで表彰します。作品は館内に展示。